

テーマ	Patient selection（対象患者の特定）：周知するための体制を構築		
執筆者の 所属と職種 および氏名	大阪府済生会吹田病院 理学療法士 木村孝	執筆年月日	2026/6/10

<ポイント>

- 患者特定の確実化：病棟看護師の院内メール通知を起点に多職種へ即時共有し、テンプレートで役割分担を明確化する
- カンファレンスと診療報酬の連動：週1回の多職種カンファレンスに OLS テンプレートを組み込み、「二次性骨折予防継続管理料」の算定を同時に完結させる持続可能な運用

<本文>

1. 背景

脆弱性骨折は高齢者の ADL 低下や生命予後の悪化を招く重大な健康課題である。一方で、骨折後に適切な骨粗鬆症治療を受ける患者は世界的に約 20%にとどまるとされ、この「ケアギャップ」の解消が長年の課題となっている¹⁾。こうした状況に対する有効な対策として、骨折後患者を体系的に管理する骨折リエゾンサービス（Fracture Liaison Service：FLS）が国際的に普及してきた。日本においても、2019 年に FLS クリニカルスタンダードが策定され²⁾、さらに 2022 年度診療報酬改定では「二次性骨折予防継続管理料」が新設されたことで、二次骨折予防を推進するための制度的基盤が整備されつつある³⁾。

2. 済生会吹田病院における FLS 実践体制

2-1. 患者特定体制と入院時スクリーニング

済生会吹田病院では、脆弱性骨折患者を確実に把握するため、整形外科病棟への入院を起点とした院内連携体制を構築している。（図 1）救急搬送等を経て対象患者が入院した際には、病棟看護師が二次性骨折予防チーム全員へ院内メールを送信し、患者情報を速やかに共有する仕組みとしている。通知後、管理栄養士が電子カルテ上の「二次骨折予防テンプレート」を起動し、その後、看護師、薬剤師、理学療法士が基本情報・採血結果、並びに各専門領域の評価項目を順次入力し、多職種による包括的な評価を実施する。

院内メールによる迅速な情報共有と、共通テンプレートを活用した評価体制により、対象患者の取りこぼし防止と多職種による体系的評価を実現している点が本体制の特徴である。

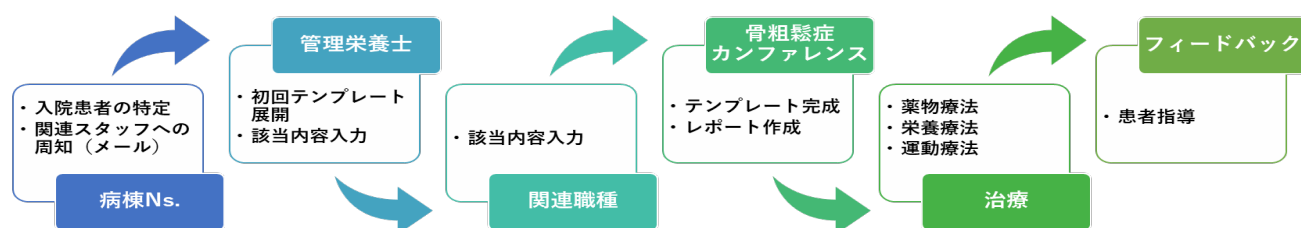


図 1 患者の特定からスタッフへ周知し介入するまでの流れ

2-2. 骨粗鬆症多職種カンファレンスの運用

週 1 回開催される骨粗鬆症多職種カンファレンスでは、骨粗鬆症マネージャーが「OLS/FLS Assessment Report テンプレート」（図 2）を用いてカンファレンス内容を記録する。テンプレートには「二次性骨折予防継続管理料」の算定機能が組み込まれており、カンファレンス実施と同時に算定業務が行える仕組みとなっている。

カンファレンスでは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーションスタッフが参加し、薬物療法、栄養療法、運動療法を中心とした介入方針を検討する。また、決定した内容は患者へフィードバックされ、退院後の継続的な骨粗鬆症管理につなげている。

「OLS/FLS テンプレート」には、FRAX、%YAM、握力、片脚立位時間、2 ステップテストなどの身体機能評価に加え、Alb、eGFR、Ca、骨代謝マーカー、25(OH)D などの検査データ、糖尿病や COPD をはじめとする続発性骨折リスク関連疾患の情報が集約されている。このレポートはリエゾン外来でも継続して活用され、入院から外来まで一貫した評価を可能としている。

3. 本事例の意義と今後の課題

当院の FLS 活動の特徴は、①病棟看護師による院内メール通知を活用した確実な患者特定、②管理栄養士を起点としたテンプレート運用と明確な役割分担、③多職種カンファレンスと診療報酬算定の連動、④入院から外来まで共通テンプレートを活用した継続的フォローアップ体制の構築、の 4 点に集約される。

FLS の有効性については、海外からの報告において骨折発生率の低下や医療費削減効果が示されており¹⁾多職種協働による系統的な二次骨折予防の有用性は広く認識されている。本院の取り組みは、こうした国際的エビデンスを実臨床へ実装した実践例として意義が大きい。

一方で、本体制の有効性を客観的に評価するためには、治療開始率や治療継続率、再骨折率、転倒発生率などのアウトカム指標を継続的に収集・分析する必要がある。今後は蓄積されたデータを活用し、多施設との連携や研究活動を通じて FLS の成果を検証するとともに、地域全体での二次骨折予防体制の強化につなげていくことが求められる。

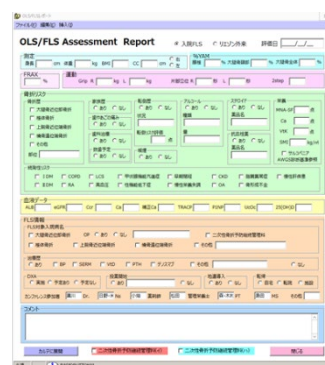


図2 OLS/FLS Assessment Report テンプレート

<事例>

参考資料

- 1) 日本骨粗鬆症学会，日本脆弱性骨折ネットワーク：日本版 二次骨折予防のための骨折リエゾンサービス (FLS) 実践マニュアル，2020.
- 2) 日本骨粗鬆症学会，日本脆弱性骨折ネットワーク：日本版 二次骨折予防のための骨折リエゾンサービス (FLS) クリニカルスタンダード 第4版，2026.
- 3) 厚生労働省保険局医療課：令和4年度診療報酬改定の概要 個別改定事項V，2022.

4) González-Quevedo D, Rubia-Ortega C, Sánchez-Delgado A, et al. : Secondary osteoporosis prevention: three-year outcomes from a Fracture Liaison Service in elderly hip fracture patients. Aging Clin Exp Res 36, 2024

COI

本稿に関して、開示すべき利益相反はない